

三菱電機関西地域のリサイクル推進活動

大内雄次*

Recycle Promotion Activities of Mitsubishi Electric Corporation KANSAI Area

Yuji Ouchi

要 旨

三菱電機グループでは、創立100周年に向けた“環境ビジョン2021”を2007年に策定し、新たな目標に向けた環境推進活動をスタートさせた。環境ビジョン2021では、製品・製造時の地球温暖化防止(CO₂の排出抑制)と資源の有効利用3R(Reduce: 廃棄物の発生抑制, Reuse: 再使用, Recycle: 再資源化(熱回収含む))及び環境マインド向上を推進することを約束している。

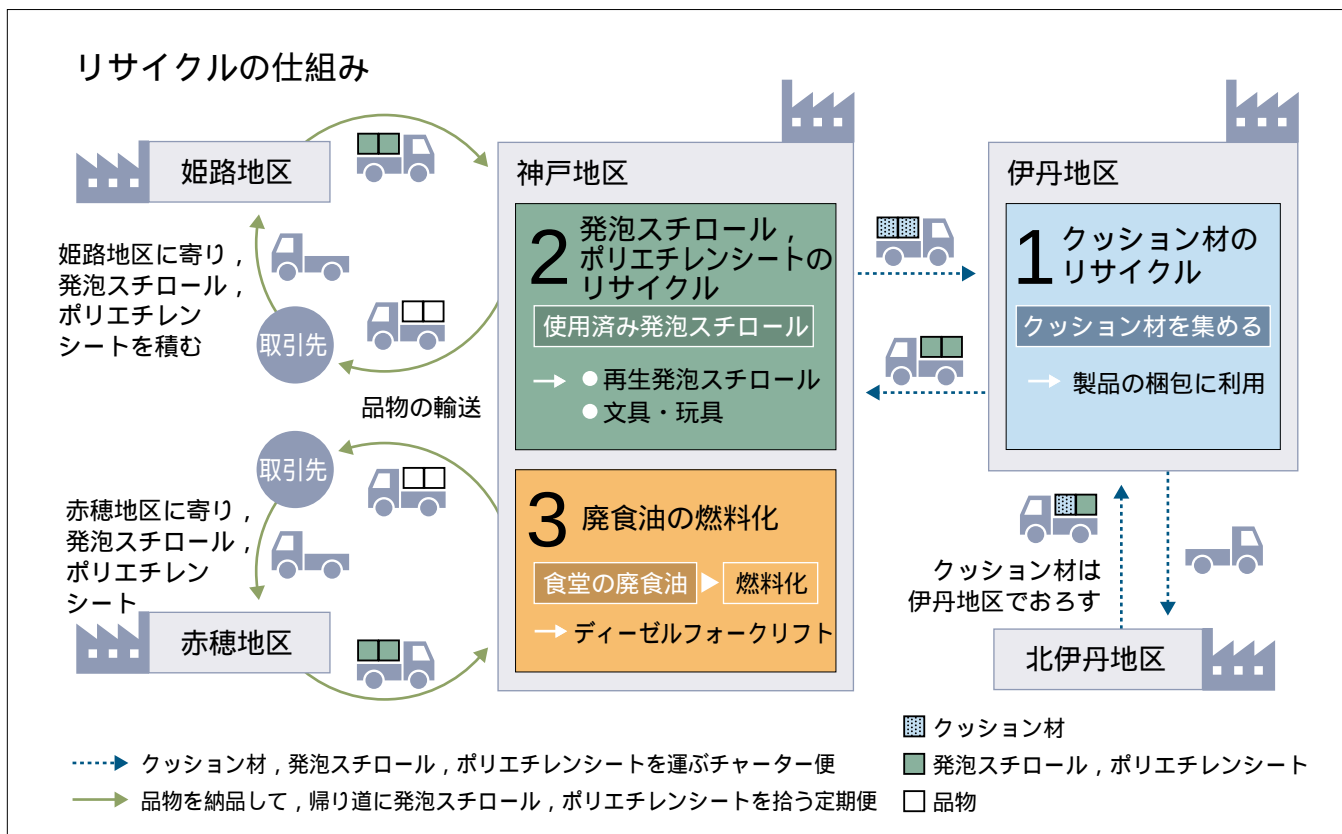
地球温暖化防止対策と資源の有効利用は一見別々の活動に見えるが、非常に密接な関係にある。例えば鋼材を資源循環利用すると、鋼材採掘のエネルギーや(プラスチック製品の場合は原料となる石油まで削減される)輸送・加工・廃棄等ライフサイクル全体で地球温暖化防止に寄与する。よって製品の小型化や複合盤化で省資源化することは、資源の枯渇防止と同時に地球温暖化防止にも効果がある。

三菱電機では1993年から環境行動計画をスタートさせ廃棄物削減を進めてきた。2000年頃からはゼロエミッション^(注1)への取り組みも同時に推進し、2007年度実績では当社単独埋立て比率0.16%, 国内関係会社1.44%, 海外関係会社4.95%の実績となり、当社単独ではゼロエミッションを達成している。しかし、現在のゼロエミッションの考え方は1995年頃の廃棄物最終埋立地の逼迫(ひっばく)問題からきたもので、廃棄物の直接埋立てゼロを目指したものであり、資源循環利用を示した指標とはいえない面もある。

今後は資源循環と地球温暖化防止の両面を考慮する必要があり、そのモデルとして関西地域の5つの地区による廃棄物のリユース・リサイクルと地球温暖化防止への取り組み事例について述べる。

(注1) ゼロエミッションの定義: 国内当社生産拠点で直接埋め立て量/総排出量を0.5%以下

特集
II



関西地域リサイクル事業

関西地域の神戸地区(兵庫県神戸市)、伊丹地区(兵庫県尼崎市)、北伊丹地区(兵庫県伊丹市)、姫路地区(兵庫県姫路市)、赤穂地区(兵庫県赤穂市)が連携し、廃棄物のリユース・リサイクルと廃棄物物流でCO₂を削減した。